

佳作

ぼくの益城町

沖縄県 与那国町立与那国小学校六年 前川 尊鷹

「尊鷹さんのふるさとはどこですか。」

四月、担任の先生に聞かれてぼくは、

「熊本県の益城町です。」

と答えました。ぼくは、この四月に父の仕事の関係で熊本から沖縄の与那国島に引っこしてきました。

「熊本の益城町からきた前川尊鷹です。」

四月七日、与那国小学校の全校児童の前で自己紹介をしました。ぼくの不安な気持ちを読み取ってくれたのか、

「一緒に教室に行こう。よろしくな。」

と周りの同級生達が声をかけてくれました。少しずつ与那国島の生活に慣れてきた四月十四日の日。テレビでニュース速報が流れました。

(震度七 熊本県益城町)

ぼくは目を疑いました。テレビには、ぼくの住んで

いた益城町や友達がたくさん映っていました。母にお願いして、友達に電話で連絡をとると、家が傾いてもう住めないとのことでした。ぼくは、その言葉を聞いて胸が痛くなりました。毎日、テレビから伝わる益城町の様子を見てとても悲しかったし、何とかしてあげたくてもできない自分が悔しかったです。前の生活に戻るまでは、まだ時間がかかると思いますが、地震前の益城町に早く戻ってほしいと思います。そして、ぼくの益城町の友達を一度与那国島へ呼んで、与那国島の自然でいやしてあげたいです。

「与那国島の自然は最高だよ。」

熊本からきたぼくは、声をあげて言いたいです。与那国島の海は僕が今まで見た海の中で一番きれいです。釣りがしゅみのぼくにとって釣りのメッカ与那国島は天国です。そしてここにきて良かったと思うのは、運動会でエイサーを踊ったことです。

「イーヤーサーサー、ハイヤー」

友達がおどっているのを初めて見た時は、僕にはできないかと思っていたけど、一生懸命練習して、運動会では一緒におどることができました。ぼくはこの時、少しだけ与那国島の人に近づけたと感じて、とてもうれしかったです。

そして、何よりも与那国島の人達の人柄は素晴らしいなど感じています。みんな優しく、なんだか兄弟、家族のように感じます。このような人達に囲まれているとぼくも、優しくなれてきたように思います。与那国島にきて、半年が経ちました。豊かな自然と、与那国の人達の優しい人柄にふれ、ぼくは充実した毎日を送ることができています。そして、四月に先生から聞かれた言葉。

「尊鷹さんのふるさとはどこですか。」

「ぼくのふるすとは益城町と与那国島です。」
と、今のぼくは答えると思います。そのくらいぼくが生きてきた十二年間で与那国島での体験は大きな存在になっていきます。ぼくをそんな気持ちにさせてくれた与那国島に日々感謝です。

与那国島、最高!!